

addpoint **MailWallServer**

V7.2 for VMware

導入の手引き

NECソフト

本書の一部あるいは全部について、NECソフト株式会社の事前の承認なく、複製、転載することを禁止します。

目 次

1. はじめに	5
1.1. AddPoint について	6
1.1.1. システム構成	7
1.1.2. 動作環境	8
2. 導入	9
2.1. ライセンス申請	10
2.1.1. GUARDIANWALLのライセンス申請	10
2.2. 導入準備	11
2.2.1. vSphere Serverへのログイン	11
2.2.2. 仮想アプライアンスのインポート	13
2.2.3. メモリの追加	19
2.2.4. ディスクの追加	21
2.2.5. 複数のネットワークインタフェースの使用	26
2.3. AddPointのセットアップ	28
2.3.1. セットアップの流れ	28
2.3.2. システム設定画面への接続	29
2.3.3. システム設定開始	30
2.3.4. システム管理者設定	31
2.3.5. ネットワーク設定	32
2.3.6. hostsファイル設定	34
2.3.7. アクセス制御設定	35
2.3.8. メール転送設定	37
2.3.9. GUARDIANWALL設定	39
2.3.10. 設定内容確認	40
2.3.11. システム再起動	40
2.4. AddPoint Manager	41
3. 注意事項	42
3.1. 注意事項	43
3.1.1. VMware vSphereに関連する注意事項	43
3.1.2. AddPointに関連する注意事項	43
3.1.3. GUARDIANに関連する注意事項	43

4. 付録	45
4.1. 仮想マシン関連	46
4.1.1. VMware Toolsのインストール	46
4.2. クライアントPC関連	48
4.2.1. クライアントPCのネットワーク設定	48

1. はじめに

本書では、お客様が初めて本製品を利用されるにあたって、導入の手順を解説しています。本書をよく読んでから、作業にあたってください。

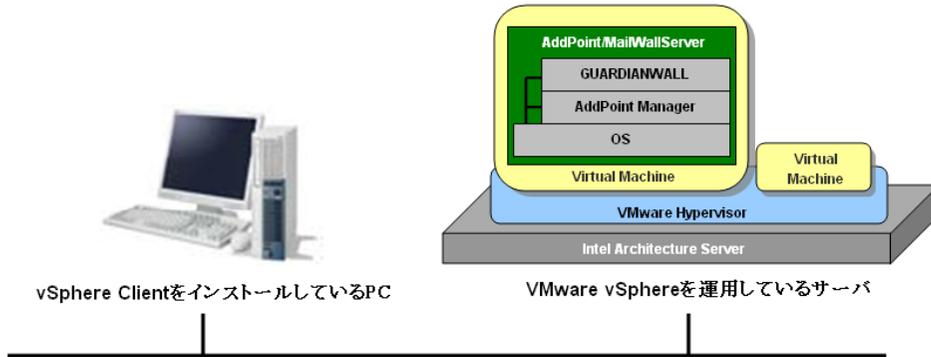
1.1. AddPointについて

本書では、お客様が初めて本製品を利用されるにあたって、AddPoint/MailWallServer for VMware(以下 AddPoint と表記)のインストール DVD に格納している仮想アプライアンスをインポートする手順と、運用するための初期セットアップについて説明します。VMware 関連製品の使用方法については、VMware 製品のマニュアルを参照してください。

仮想アプライアンスとは、事前にオペレーティングシステムとアプリケーションがインストールされた仮想マシンです。本製品は、Linux OS にメールセキュリティソフトウェア「GUARDIANWALL」をインストールした仮想アプライアンスサーバであり、製品添付のインストール DVD に格納しています。

1.1.1. システム構成

AddPoint/MailWallServer for VMware は、VMware vSphere 製品上で利用可能な製品です。本製品のご利用にあたって VMware vSphere 環境を用意してください。



上記の図のように、VMware vSphere を運用しているサーバに仮想アプライアンスをインポートすることで、1つの仮想マシンとして利用できるようになります。

項目	説明
vSphere Client をインストールしている PC	vSphere Client を使用して VMware vSphere を設定、管理します。WindowsPC にインストールして使用します。次のような機能があります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 仮想マシンを操作するコンソール機能 ・ VMware vSphere の管理ツールとしての機能
VMware vSphere を運用しているサーバ	VMware vSphere を運用しているサーバは、VMware 社から認証を取得している機種、デバイスである必要があります。例えば、CPU が 2 個搭載されているなどの条件があります。詳細は、VMware vSphere のマニュアル等を参照してください。

1.1.2. 動作環境

AddPoint が利用可能な VMware vSphere は以下のとおりです。

製品名	バージョン
VMware vSphere	4
ESX/ESXi	4.1

AddPoint の仮想マシンは、以下の諸元に設定しています。

リソース名	必要量
CPU	2 個
メモリ	2GB
LAN インタフェース(仮想 NIC 1)	LAN1 (物理 NIC 0)
ディスク容量	256GB

初期状態では、LAN1 の設定は以下のとおりです。

項目	設定値
LAN インタフェース	eth0
IP アドレス	192.168.250.250
ネットワークマスク	255.255.255.0
ホスト名	localhost.domain



注意

インポートする際に、VMware vSphere に上記のメモリやディスク容量などが確保できない場合、AddPoint 製品のインポートが異常終了したり、本来の性能を利用することができない場合があります。

2. 導入

この章ではお客様が運用を開始するまでに必要な作業をまとめてありますので、クイックスタートとしてご利用いただけます。

2.1. ライセンス申請

2.1.1. GUARDIANWALLのライセンス申請

AddPoint の導入にあたり、セットアップ作業前に GUARDIANWALL のライセンスキーを取得します。ライセンスキーの取得は、インストール DVD に格納されている『AddPoint/MailWallServer ライセンス申請シート』(AddPointMWS_license.xls)を記入し、窓口へライセンスキーの発行を依頼してください。

2.2. 導入準備

2.2.1. vSphere Serverへのログイン

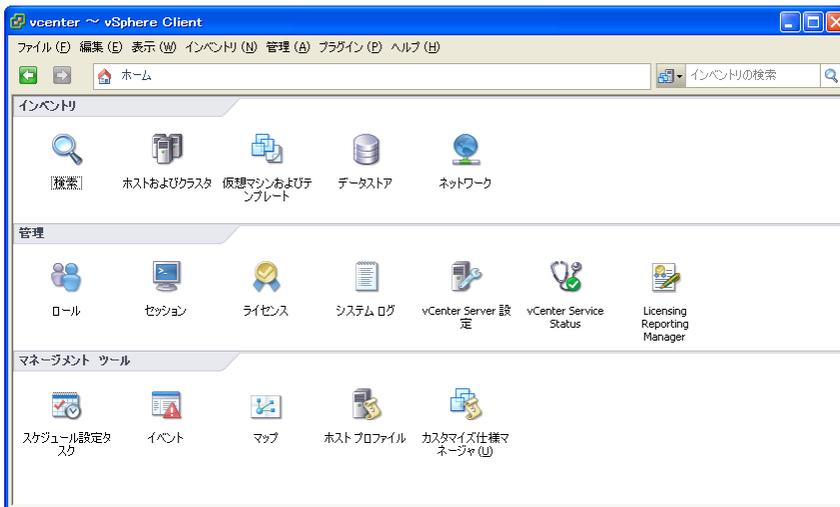
VMware vSphere Server に AddPoint の仮想アプライアンスをインポートするために vSphere Client を利用して VMware vSphere Server にログインします。vSphere Client をインストールしている PC を用意してください。

- ① 「スタート」-「すべてのプログラム」-「VMware」-「VMware vSphere Client」を選択し、vSphere Client を起動します。vSphere Client のログイン画面が表示されます。



- ② VMware vSphere Server の管理者権限のアカウントでログインします。

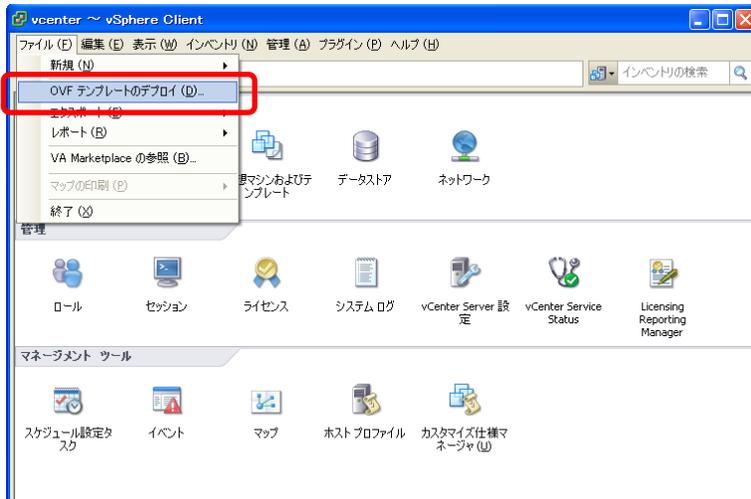
③ ログインに成功すると、以下のような管理画面が表示されます。



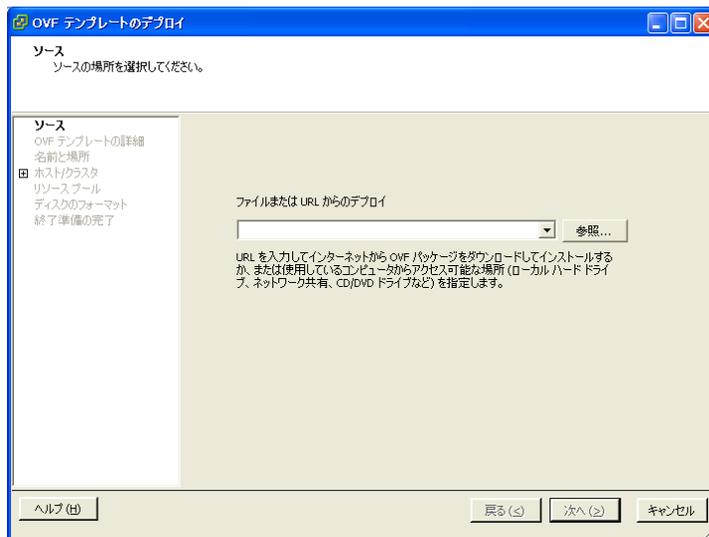
2.2.2. 仮想アプライアンスのインポート

仮想アプライアンスとは、事前にオペレーティングシステムとアプリケーションがインストールされた仮想マシンです。AddPoint は製品添付のインストール DVD に格納しています。

- ① vSphere Client 管理画面で「ファイル」－「OVF テンプレートのデプロイ」を選択します。

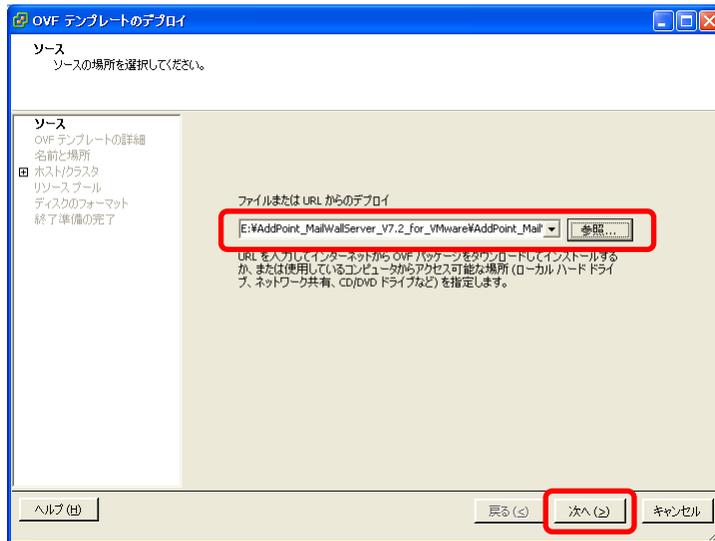


- ② 「OVF テンプレートのデプロイ」画面の「ソース」ページが表示されます。

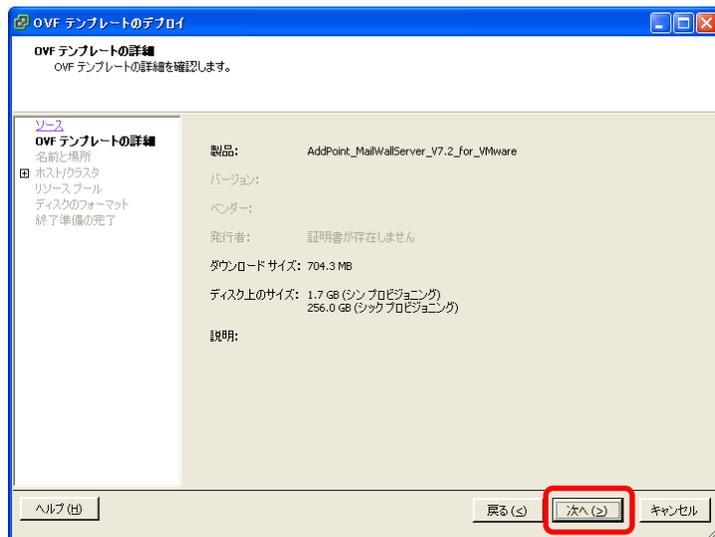


- ③ AddPoint に添付されているインストール DVD を vSphere Client が参照可能なドライブにセットし、「参照」をクリックします。

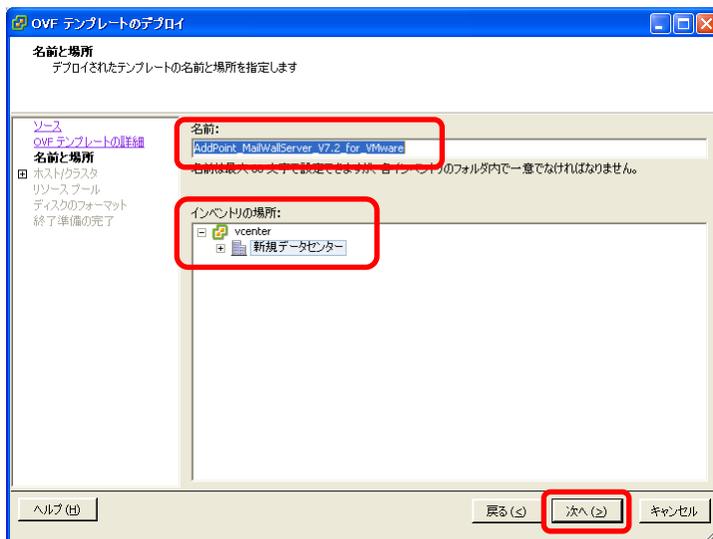
表示されたファイル選択画面でインストール DVD に格納されている仮想アプライアンスイメージファイルを選択し、「開く」をクリックします。「ソース」ページに戻ったら「ファイルまたは URL からデプロイ」に入力されている内容を確認し「次へ」をクリックします。



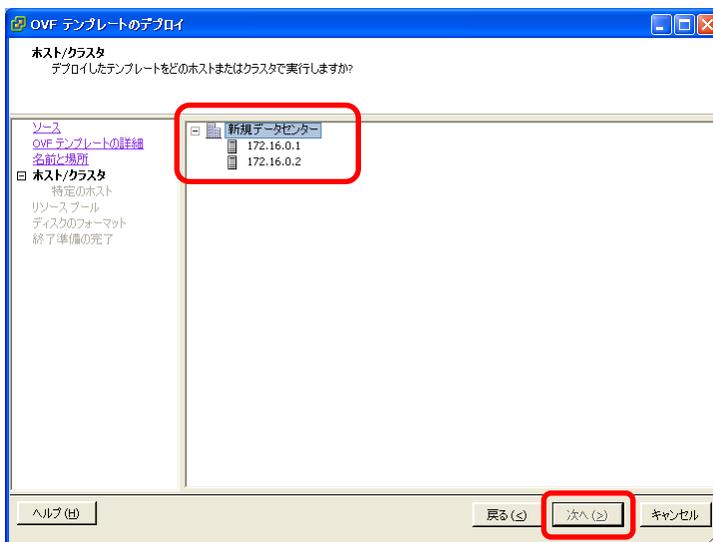
- ④ 「OVF テンプレートの詳細」ページが表示されます。「次へ」をクリックします。



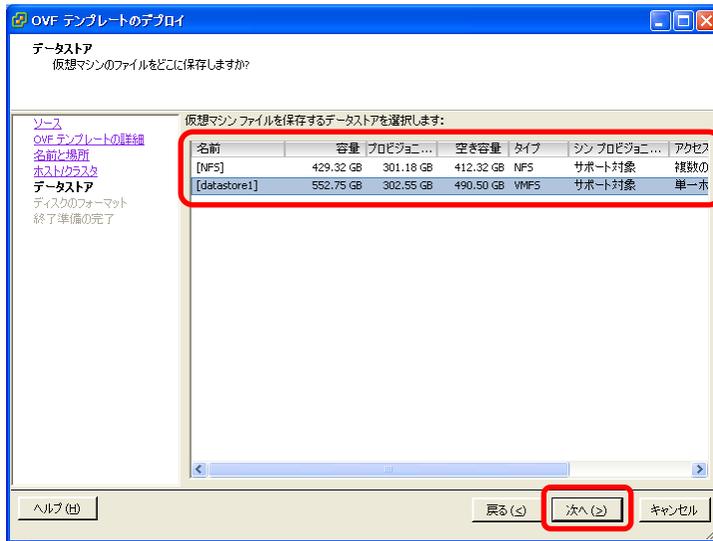
- ⑤ 「名前と場所」ページが表示されます。仮想マシンの名前と AddPoint を登録するデータセンターを指定し、「次へ」をクリックします。



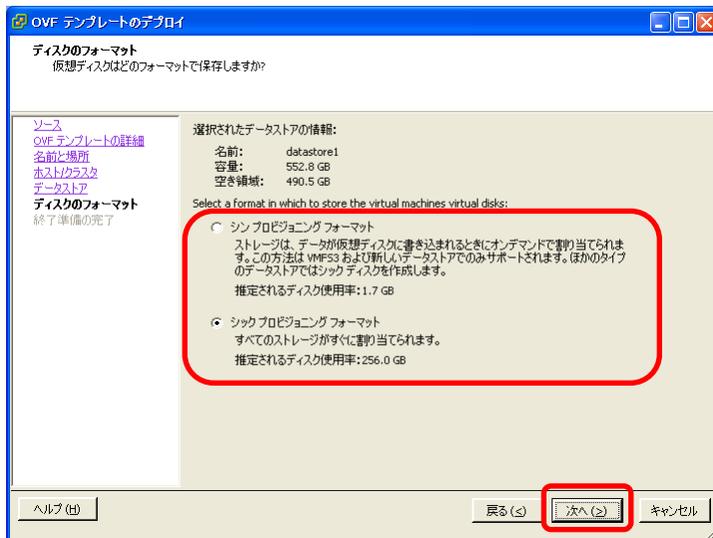
- ⑥ 「ホスト/クラスタ」ページが表示されます。AddPoint をどのホストで実行するか選択してください。選択後、「次へ」をクリックします。



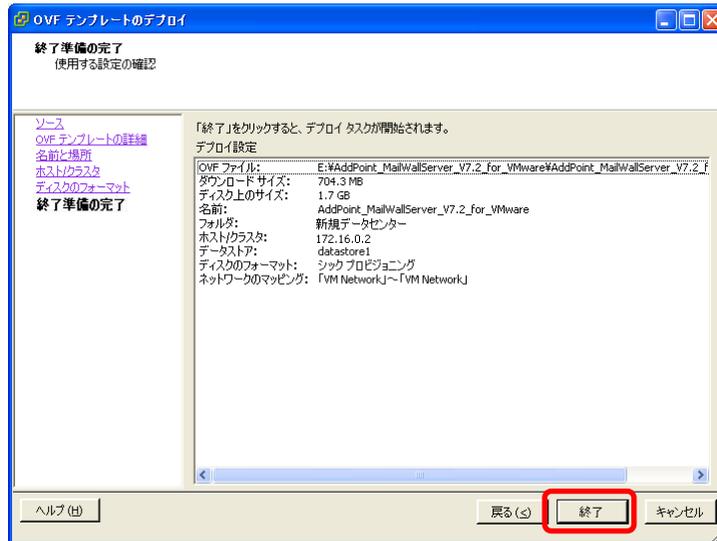
- ⑦ 「データストア」ページが表示されます。仮想マシンのファイルを保存するデータストアを選択しクリックします。



- ⑧ 「ディスクのフォーマット」ページが表示されます。AddPoint は手順④「OVF テンプレートの詳細」で表示されたように、ディスク上のサイズは 256GB になります。「シック プロビジョニングフォーマット」を選択し「次へ」をクリックします。



- ⑨ 「終了準備の完了」ページが表示されます。「終了」をクリックします。



- ⑩ デプロイが開始されます。

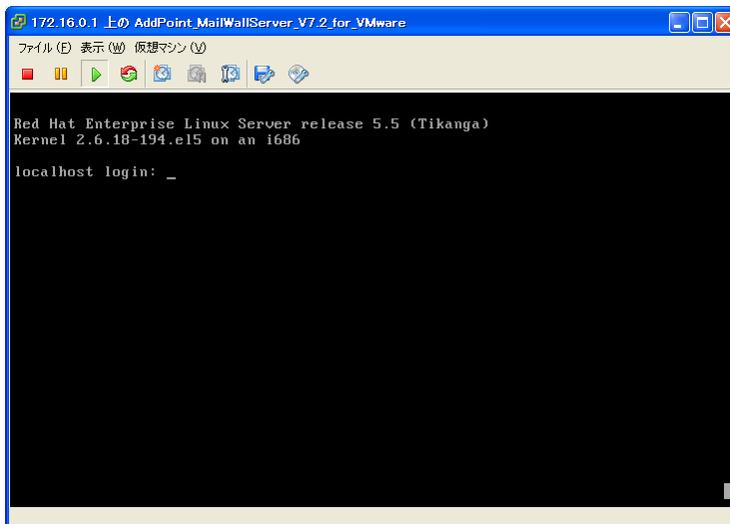


以下のように表示されたらデプロイは完了です。



- ⑪ インポートした仮想アプライアンス(仮想マシン)をパワーオンし、vSphere Clientの「コンソール」タブを表示して AddPoint の起動を確認します。

コンソールからカーソルを開放するには、<Ctrl>+<Alt>キーを同時に押下します。



上記のようにログインプロンプトが表示されたら、AddPoint は正常に起動しています。

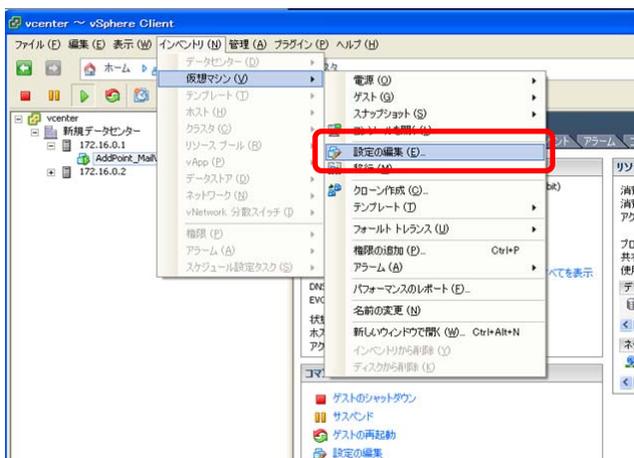
2.2.3. メモリの追加

AddPoint で使用するメモリを増やすには、以下の手順でメモリを追加します。

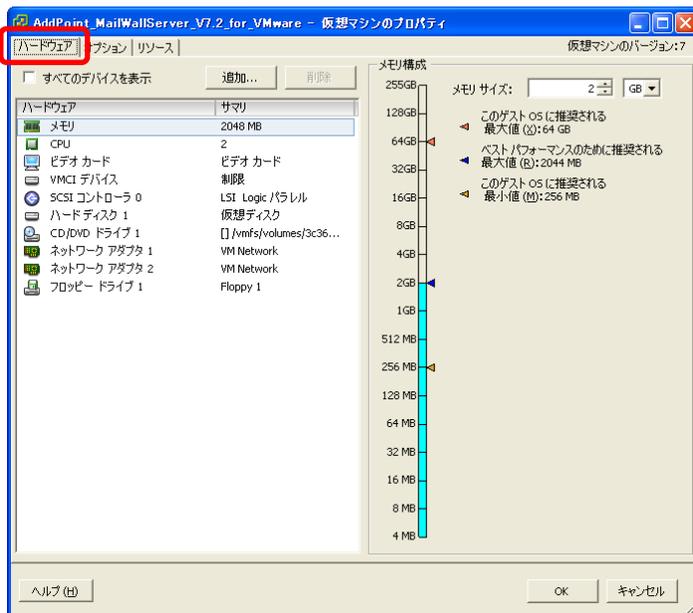


メモリを追加するには、作業前に仮想マシンを停止しておく必要があります。

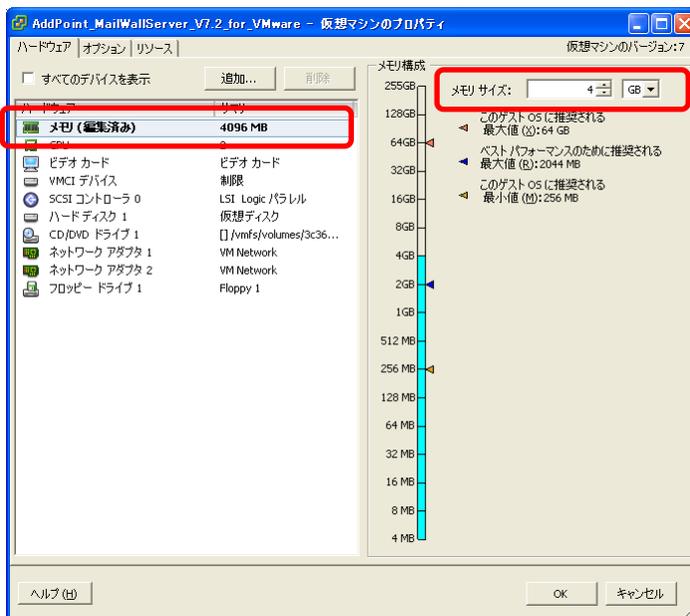
- ① vSphere Client 管理画面で「インベントリ」パネルから「ホストおよびクラスタ」を選択すると、VMware vSphere Server 上の仮想マシン一覧が表示されます。
- ② 表示された仮想マシン一覧の中から、メモリを増やす AddPoint を選択します。
- ③ 「インベントリ」－「仮想マシン」－「設定の編集」をクリックします。



- ④ 表示された「仮想マシンのプロパティ」画面から「ハードウェア」タブをクリックします。



- ⑤ 「メモリ」を選択し、右画面の「メモリサイズ」を変更します。



- ⑥ 「OK」をクリックします。

2.2.4. ディスクの追加

AddPoint は、GUARDIANWALL でバックアップされた保存メールを閲覧する場合、バックアップファイルをリストアするためのログリストア領域を必要とします。仮想アプライアンスの初期状態はシステムファイルをインストールした仮想ディスクのみであるため、保存メールをバックアップする運用をされる場合は、ログリストア領域用の仮想ディスクを追加する必要があります。

ログリストア領域の容量は、以下を目安に計算してください。

「1日のメール流量(通数)」×「平均メールサイズ」×1.5×「リストア対象期間(日数)」

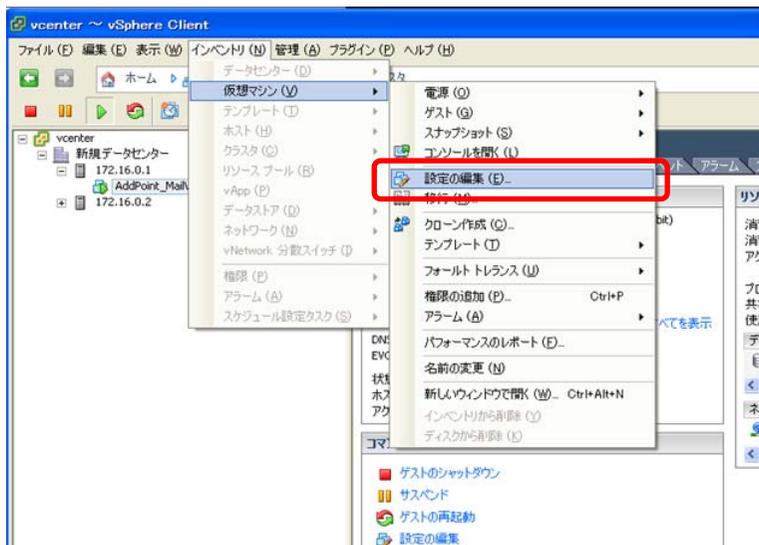


仮想ディスクを追加するには、作業前に仮想マシンを停止しておく必要があります。

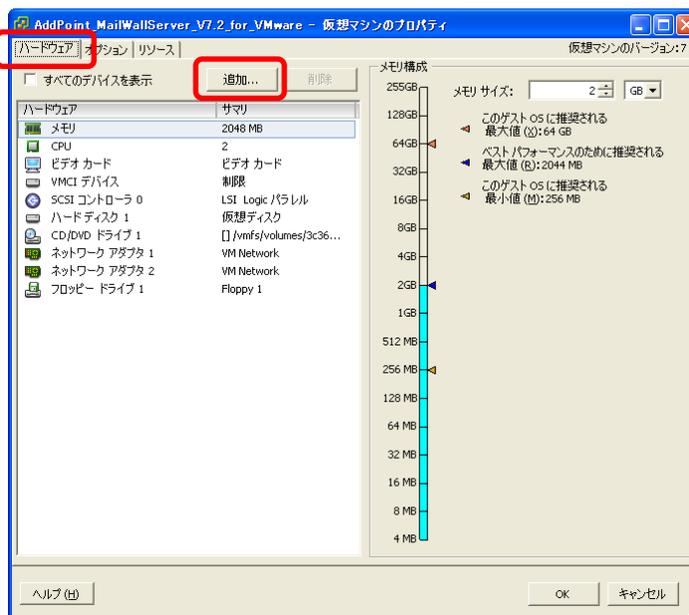
以下の手順で仮想ディスクを追加します。

- ① vSphere Client 管理画面で「インベントリ」パネルから「ホストおよびクラスタ」を選択すると、VMware vSphere Server 上の仮想マシン一覧が表示されます。
- ② 表示された仮想マシン一覧の中から、ディスクを追加する AddPoint を選択します。

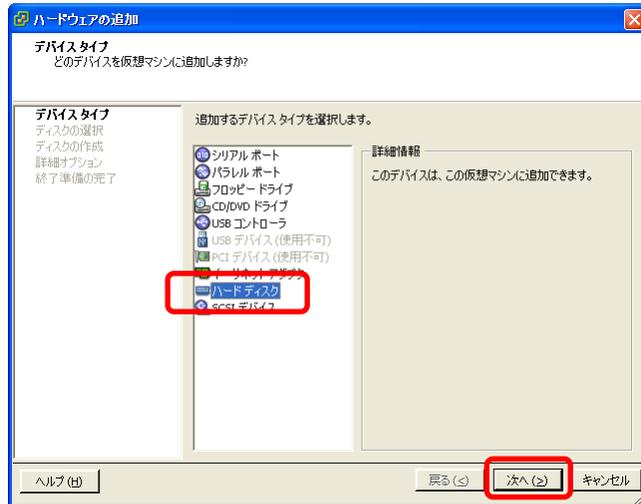
- ③ 「インベントリ」-「仮想マシン」-「設定の編集」をクリックします。



- ④ 表示された「仮想マシンのプロパティ」画面から「ハードウェア」タブをクリックし、「追加」をクリックします。



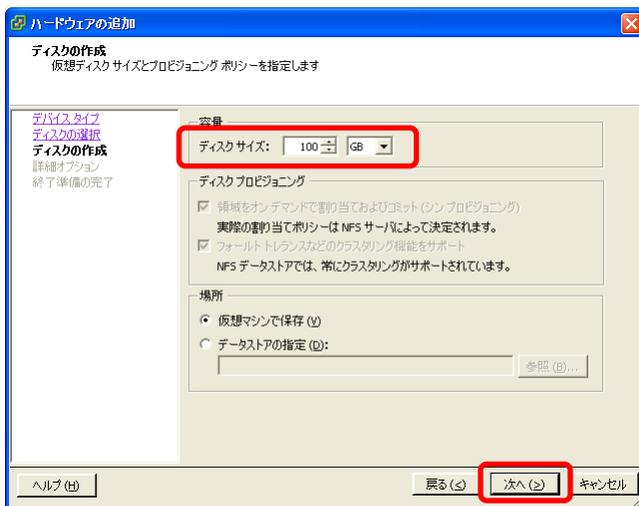
- ⑤ 「ハードウェアの追加」画面の「デバイスタイプ」ページが表示されます。デバイス選択リストから「ハードディスク」を選択し、「次へ」をクリックします。



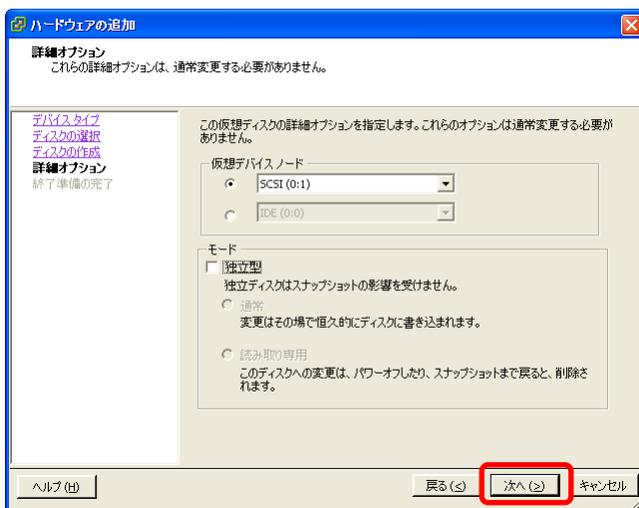
- ⑥ 「ディスクの選択」ページで「新規仮想ディスクを作成」を選択し、「次へ」をクリックします。



- ⑦ 「ディスクの作成」ページで確保する容量を「ディスクサイズ」に指定し、「次へ」をクリックします。



- ⑧ 「詳細オプション」ページで既定値のまま「次へ」をクリックします。



⑨ 「終了準備の完了」ページで設定内容の確認後、「終了」をクリックします。



初期状態で仮想ディスクを追加した場合、システム上では追加順に「/dev/sdb」「/dev/sdc」として認識されます。

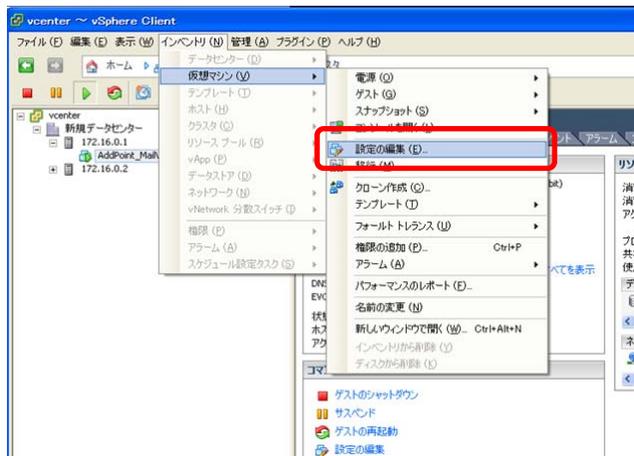
2.2.5. 複数のネットワークインタフェースの使用

AddPoint で複数のネットワークインタフェースを使用する場合は、以下の手順でネットワークアダプタ 2 を有効にします。

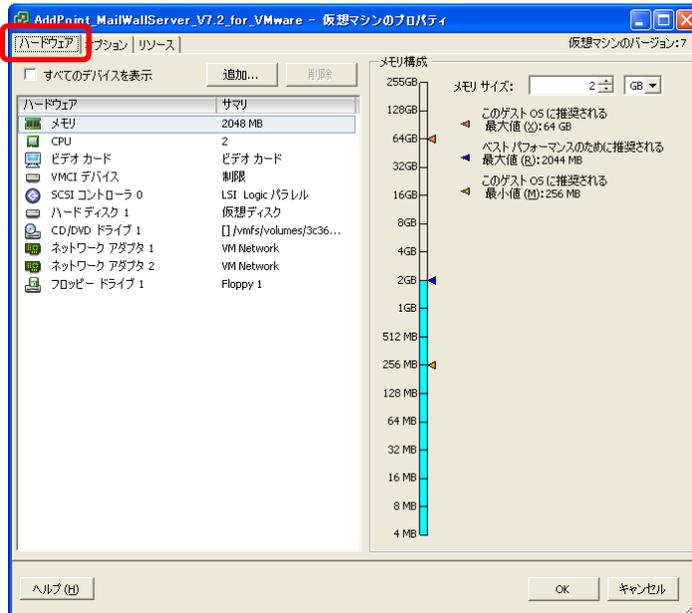


ネットワークアダプタ 2 を有効にするには、作業前に仮想マシンを停止しておく必要があります。

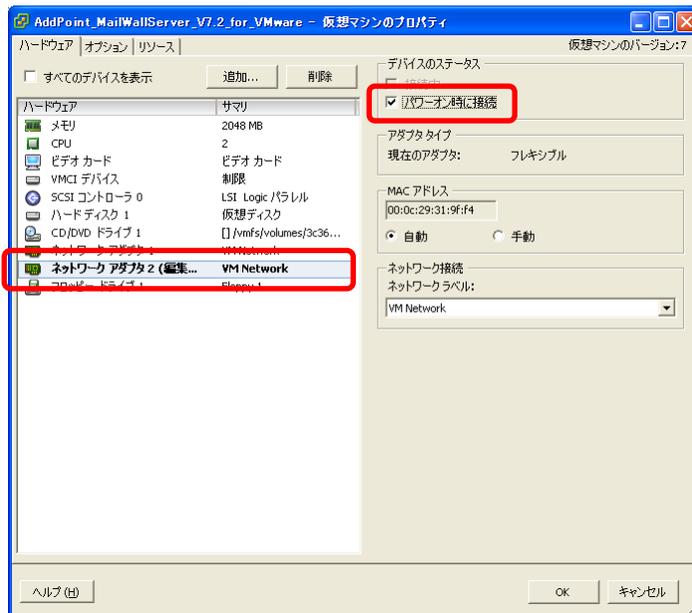
- ① vSphere Client 管理画面で「インベントリ」パネルから「ホストおよびクラスタ」を選択すると、VMware vSphere Server 上の仮想マシン一覧が表示されます。
- ② 表示された仮想マシン一覧の中から、ネットワークアダプタ 2 を有効にする AddPoint を選択します。
- ③ 「インベントリ」-「仮想マシン」-「設定の編集」をクリックします。



- ④ 表示された「仮想マシンのプロパティ」画面から「ハードウェア」タブをクリックします。



- ⑤ 「ネットワークアダプタ 2」を選択し、右画面の「パワーオン時に接続」をチェックします。

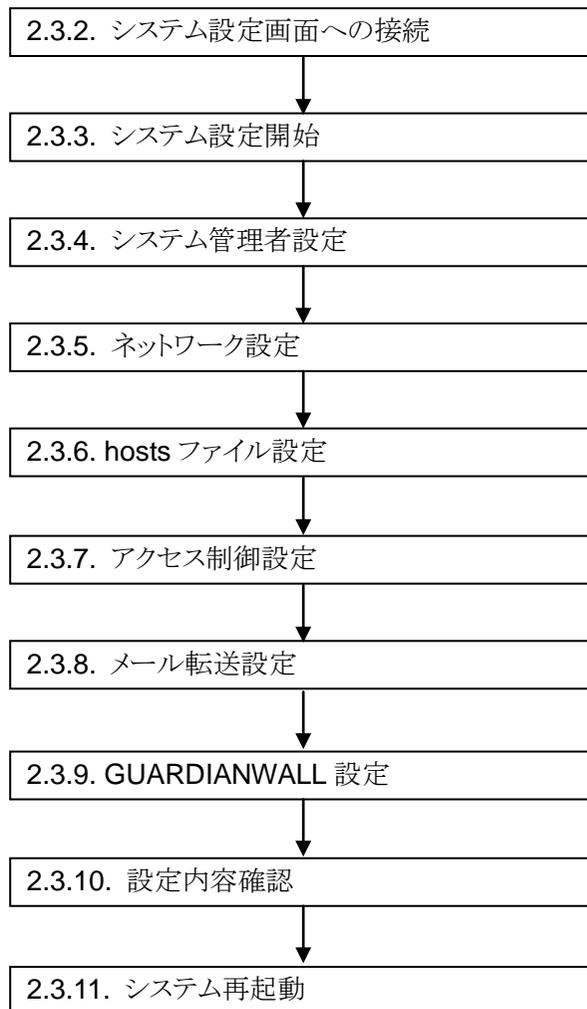


- ⑥ 「OK」をクリックします。

2.3. AddPointのセットアップ

2.3.1. セットアップの流れ

AddPoint のセットアップの手順は以下のとおりです。運用するネットワーク環境に合わせてセットアップを実施してください。



2.3.2. システム設定画面への接続

クライアント PC の Microsoft Internet Explorer を介して AddPoint に接続し、セットアップを行います。使用できる管理用クライアント PC の要件は以下のとおりです。

項目	要件
OS	WindowsXP SP3、Windows Vista SP1/SP2、Windows 7
ウェブブラウザ	Internet Explorer 6、7、8
その他条件	ウェブブラウザの JavaScript が有効であること

- ① AddPoint に接続するクライアント PC の IP アドレスを AddPoint と通信ができる IP アドレスに変更します。
- ② クライアント PC でブラウザを起動し、以下を参照します。

```
http://192.168.250.250:1446/amsc/
```

接続できない場合はクライアント PC から ping コマンドなどで通信状態を確認してください。

```
C:¥> ping 192.168.250.250
```



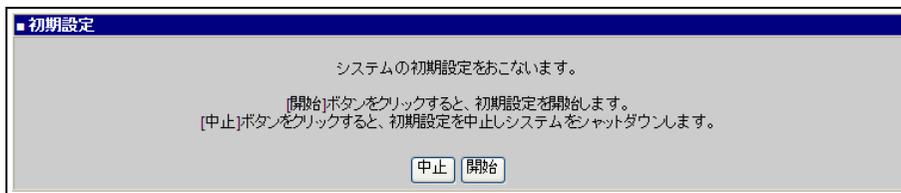
AddPoint と通信ができない場合は、設定されているネットワークと接続できるようにクライアント PC のネットワーク設定を確認してください。

- ③ 以下の情報を入力し、システム管理画面にログインします。

項目	入力値
ユーザ名	root
パスワード	addpoint

2.3.3. システム設定開始

ログインが成功すると以下の画面が表示されます。「開始」をクリックし、初期設定を開始します。作業を中止する場合は「中止」をクリックします。



2.3.5. ネットワーク設定

お客様の運用環境に合わせたネットワーク情報を設定します。

「ホスト名(FQDN)」にはドメイン名を含めたホスト名を入力してください。

以下の項目について必要な情報を入力し、「次へ」をクリックしてください。(*)がついている項目は必須入力です。

項目	設定内容
ホスト名(FQDN) (*)	AddPoint のホスト名です。「ホスト名」+「ドメイン名」の FQDN で指定します。 FQDN は"addpoint.example.com"などとなります。
IP アドレス(eth0) (*)	AddPoint の IP アドレス(10 進数表記)を設定します。
サブネットマスク(eth0) (*)	IP アドレス(eth0)のサブネットマスク(10 進数表記)を設定します。
ネットワークアドレス(eth0) (*)	IP アドレス(eth0)のネットワークアドレス(10 進数表記)を設定します。
ブロードキャストアドレス(eth0) (*)	IP アドレス(eth0)のブロードキャストアドレス(10 進数表記)を設定します。
デフォルトゲートウェイ(*)	デフォルトゲートウェイの IP アドレス(10 進数表記)を設定します。

AddPoint で複数のネットワークインタフェースを使用する場合に指定します。

項目	設定内容
IP アドレス(eth1)	2 つ目のネットワークインタフェースの IP アドレス(10 進数表記)を設定します。
サブネットマスク(eth1)	IP アドレス(eth1)のサブネットマスク(10 進数表記)を設定します。
ネットワークアドレス(eth1)	IP アドレス(eth1)のネットワークアドレス(10 進数表記)を設定します。
ブロードキャストアドレス(eth1)	IP アドレス(eth1)のブロードキャストアドレス(10 進数表記)を設定します。

DNS を使用する場合に DNS サーバの IP アドレスを指定します。複数の DNS サーバを使用する場合は 3 件まで指定できます。DNS サーバは 1 番目から順に指定してください。

項目	設定内容
ネームサーバ(1 番目)	1 番目のネームサーバの IP アドレス(10 進数表記)を設定します。
ネームサーバ(2 番目)	2 番目のネームサーバの IP アドレス(10 進数表記)を設定します。
ネームサーバ(3 番目)	3 番目のネームサーバの IP アドレス(10 進数表記)を設定します。

ネットワーク上に存在する時刻サーバを使用したサーバの時刻同期をする場合に時刻サーバの IP アドレスを指定します。メールのヘッダ情報やシステムログなどに記録されるため、時刻サーバの使用を推奨しています。

項目	設定内容
時刻サーバ	時刻サーバの IP アドレス(10 進数表記)を設定します。

■ ネットワーク設定

システムのネットワーク基本情報を設定します。

LAN1(eth0)ネットワーク、LAN2(eth1)ネットワーク、名前解決(DNS)サーバ、時刻サーバの設定をします。
 *の付いている項目は、必須入力です。

*ホスト名(FQDN):

*IPアドレス(eth0):

*サブネットマスク(eth0):

*ネットワークアドレス(eth0):

*ブロードキャストアドレス(eth0):

*デフォルトゲートウェイ:

IPアドレス(eth1):

サブネットマスク(eth1):

ネットワークアドレス(eth1):

ブロードキャストアドレス(eth1):

ネームサーバ(1番目):

ネームサーバ(2番目):

ネームサーバ(3番目):

時刻サーバ:

2.3.6. hostsファイル設定

DNS に登録されていないホストに対して、ホスト名による参照をしたい場合に指定します。AddPoint 自身の情報を指定する必要はありません。本項目は 10 件まで指定できます。必要な情報を入力し、「次へ」をクリックしてください。

項目	設定内容
IP アドレス	hosts ファイルによる名前解決をするホストの IP アドレス (10 進数表記)を指定します。
ホスト名(FQDN)	IP アドレスに対応するホスト名です。「ホスト名」+「ドメイン名」の FQDN で指定します。
別名	「ホスト名(FQDN)」以外で参照する場合に指定します。

hostsファイル(別名)設定

hostsファイル(別名)の設定をします。

	IPアドレス	ホスト名(FQDN)	別名
設定1:	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
設定2:	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
設定3:	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
設定4:	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
設定5:	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
設定6:	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
設定7:	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
設定8:	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
設定9:	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
設定10:	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

2.3.7. アクセス制御設定

AddPoint に対するアクセスを制限する場合に指定します。本設定により意図しないホストから AddPoint Manager へのアクセスや電子メールの中継などを防ぐことができます。

アクセス制御をしない場合は指定する必要はありませんが、すべてのホスト、端末からもアクセスが可能となります。

必要な情報を入力し、「次へ」をクリックしてください。(*)がついている項目は必須入力です。

項目	設定内容
アクセス制御の有無(*)	アクセス制御をする場合は、「アクセス制御をする」を指定します。アクセス制御をしない場合は、「アクセス制御をしない」を指定します。

アクセス制御をする場合は、指定した IP アドレス以外からのアクセスは Linux の iptables により接続が拒否される設定となります。

AddPoint Manager にアクセスする端末や AddPoint へメールを転送するサーバなど、AddPoint に接続するサーバを指定します。AddPoint の次段のメールサーバなど、AddPoint から接続をするサーバは指定する必要はありません。

指定は必ず IP アドレスとサービスを 1 組として、それぞれ 1 組以上を指定します。本項目は 10 件まで指定できます。

項目	設定内容
IP アドレス(マスク)	アクセスを許可する IP アドレス(10 進数表記)を指定します。
プロトコル	アクセスを許可するサービスを以下の 3 項目から指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 電子メール(SMTP) ● Web アクセス(HTTP/SSL) ● その他
ポート番号	「プロトコル」で「その他」を指定した場合に許可する「ポート番号」を指定します。
プロトコル制限	「プロトコル」で「その他」を指定した場合に許可するプロトコルを以下から指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 制限なし ● TCP のみ ● UDP のみ

■ アクセス制御設定

アクセス制御の設定をお願いします。
*の付いている項目は、必須入力です。

*アクセス制御の有無: アクセス制御しない
 アクセス制御をする

	IPアドレス(マスク)	プロトコル	ポート番号	プロトコル制限
設定1:	<input type="text"/>	<選択> ▼	<input type="text"/>	<選択> ▼
設定2:	<input type="text"/>	<選択> ▼	<input type="text"/>	<選択> ▼
設定3:	<input type="text"/>	<選択> ▼	<input type="text"/>	<選択> ▼
設定4:	<input type="text"/>	<選択> ▼	<input type="text"/>	<選択> ▼
設定5:	<input type="text"/>	<選択> ▼	<input type="text"/>	<選択> ▼
設定6:	<input type="text"/>	<選択> ▼	<input type="text"/>	<選択> ▼
設定7:	<input type="text"/>	<選択> ▼	<input type="text"/>	<選択> ▼
設定8:	<input type="text"/>	<選択> ▼	<input type="text"/>	<選択> ▼
設定9:	<input type="text"/>	<選択> ▼	<input type="text"/>	<選択> ▼
設定10:	<input type="text"/>	<選択> ▼	<input type="text"/>	<選択> ▼

中止 前へ 次へ

2.3.8. メール転送設定

AddPoint から配送されるメールの送信先を指定します。メールの転送先は、以下の順序で適用されます。

1. あて先メールアドレスのドメイン名が「サーバ・ドメイン別転送設定」の「ドメイン名/ホスト名」にマッチする場合は、そのエントリの「転送先ホスト名」に転送します。
2. あて先メールアドレスのドメイン名が受信メールドメインに含まれる場合は、「受信メール設定」の「ホスト名」に指定したホストに転送します。
3. 上記のいずれにも当てはまらない場合は、「発信メール設定」の「ホスト名」に指定したホストに転送します。

必要な情報を入力し、「次へ」をクリックしてください。(*)がついている項目は必須入力です。

項目	設定内容
受信メール設定 (*)	内部あてのメールの転送先サーバホストの IP アドレス(10 進数表記)、またはホスト名(FQDN)を指定します。 AddPoint を内部から外部あてメールのみに適用するなど、内部あてのメールが AddPoint を通過しない場合は「指定しない」を指定します。
受信メールドメイン設定 (*)	内部のメールアドレスに使用しているドメイン名を指定します。本項目は 10 件まで指定できます。
発信メール設定 (*)	内部から外部あてのメールの転送先ホストを指定します。外部あてのメールを MX 配送する場合は、「AddPoint が直接発信」を指定します。 「発信メール設定」の「ホスト名」は、IP アドレス(10 進数表記)またはホスト名(FQDN)を指定します。
サーバ・ドメイン別転送設定	特定のドメインまたはホストあてのメールを「受信メール設定」「発信メール設定」の「ホスト名」に指定したホスト以外のメールサーバに転送する場合に指定します。 「種別」は"host"、"domain"のいずれかを指定します。 host: "xxx@<ホスト名>"にマッチします domain: "xxx@<サブドメイン名>.<ドメイン名>"にマッチします 転送先ホスト名は、IP アドレス(10 進数表記)またはホスト名(FQDN)を指定します。本項目は 10 件まで指定できます。

2.3.9. GUARDIANWALL設定

GUARDIANWALL に関する設定を指定します。(*)がついている項目は必須入力です。必要な情報を入力し、「次へ」をクリックしてください。

項目	設定内容
情報管理者	GUARDIANWALL 管理画面へのアクセスで使用するアカウントです。アカウントは変更できません。
情報管理者パスワード (*)	GUARDIANWALL の管理画面に「情報管理者(admin)」でアクセスする際のパスワードです。 パスワードは半角英字(大文字、小文字の区別あり)、半角数字を使用した 4 文字以上 255 文字以下で指定します(半角記号は使用できません)。
情報管理者パスワード(再入力) (*)	パスワード入力の確認のため、もう一度「情報管理者パスワード」と同じパスワードを指定します。
管理サーバライセンス	「2.1.1 GUARDIANWALL のライセンス申請」で取得した管理サーバライセンスキーを指定します。
検査サーバライセンス	「2.1.1 GUARDIANWALL のライセンス申請」で取得した検査サーバライセンスキーを指定します。
全文検索ライセンス	「2.1.1 GUARDIANWALL のライセンス申請」で取得した全文検索ライセンスキーを指定します。
ログリストア領域設定 (*)	「ログリストア領域」は、GUARDIANWALL でバックアップされた保存メールを閲覧する際に必要となる領域です。使用する場合は「ログリストア領域を設定する」を指定し、「2.2.4 ディスクの追加」で作成した仮想ディスクをログリストア領域用ディスク(/dev/xxx)を指定します。

■ GUARDIANWALL設定

GUARDIANWALLの設定します。
*の付いている項目は、必須入力です。

情報管理者: admin

*情報管理者パスワード:

*情報管理者パスワード(再入力):

管理サーバライセンス:

検査サーバライセンス:

全文検索ライセンス:

ログリストア領域設定: ログリストア領域を設定しない
 ログリストア領域を設定する 領域用ディスク:

中止 前へ 次へ

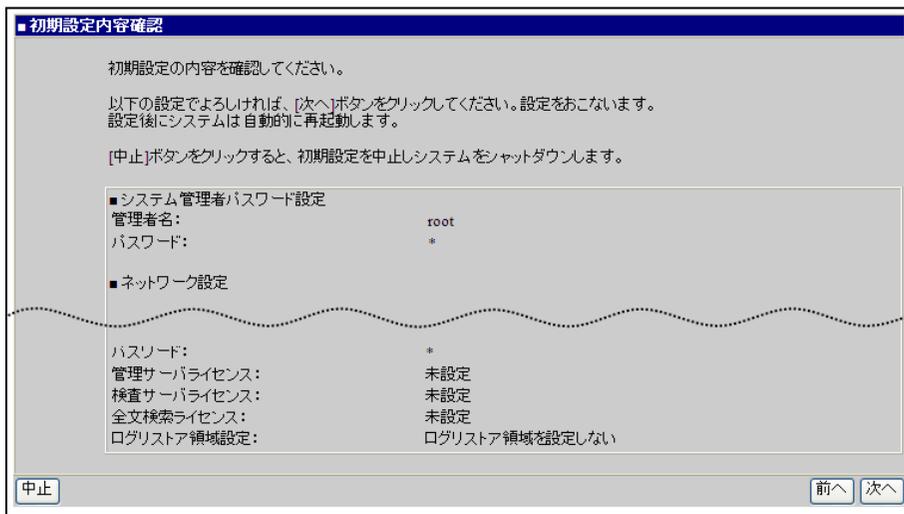
2.3.10. 設定内容確認

ここまで行ってきた設定内容が一覧表示（パスワードは(*)表示)されます。内容を確認し「次へ」をクリックしてください。

「次へ」をクリックするとシステムへの反映が開始されます。

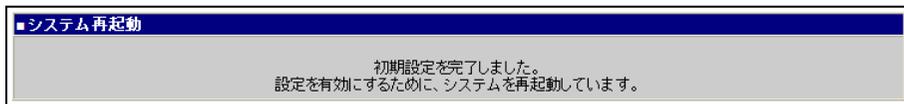


システムへの反映には数分程度かかります。
画面が切り替わるまで操作はおこなわないでください。



2.3.11. システム再起動

初期設定が完了すると以下の画面が表示されます。システムは自動的に再起動します。



2.4. AddPoint Manager

初期設定が完了しシステムが再起動した後は、稼動状況等の確認を AddPoint Manager で行うことができます。詳細については、『AddPoint/MailWallServer V7.2 for VMware ご利用の手引き』を参照してください。

AddPoint Manager は、AddPoint が設置されているネットワークにアクセス可能な Web ブラウザがインストールされているコンピュータから利用できます。

使用できる管理用クライアント PC については、「2.3.2 システム設定画面への接続」を参照してください。

Web ブラウザを起動した後、以下の URL を入力して AddPoint Manager を起動します。

【IP アドレスの場合】

[http://IP アドレス:1446/addpoint/](http://IPアドレス:1446/addpoint/)

【ホスト名の場合】

<http://ホスト名.ドメイン名:1446/addpoint/>

AddPoint のサーバ名が `addpoint.example.com` であり、IP アドレスが `192.168.1.10` の場合、以下のいずれかを入力してください。

<http://192.168.1.10:1446/addpoint/>

http://addpoint.example.com:1446/addpoint

3. 注意事項

本章では、AddPoint を使用するにあたっての注意事項についてご説明いたします。

3.1. 注意事項

3.1.1. VMware vSphereに関連する注意事項

- ① vSphere Client から連続して AddPoint の「OVF テンプレートのデプロイ」を実施すると、初期状態で割り当てられた IP アドレスの重複が発生し、正常に初期設定が行えません。「OVF テンプレートのデプロイ」は 1 システムごとに初期設定を完了させてから実施してください。
- ② AddPoint には、VMware Tools がインストールされていません。VMware Tools のインストールについては、「4.1.1 VMware Tools のインストール」を参照してください。

3.1.2. AddPointに関連する注意事項

- ① AddPoint で複数のネットワークインタフェースを使用する場合は、vSphere Client でネットワークアダプタ 2 を有効になるよう設定を変更し、システム管理画面からネットワーク情報を設定してください。設定変更については、「2.2.5 複数のネットワークインタフェースの使用」を参照してください。
- ② 以下のデバイスは使用できません。
 - テープデバイス
 - フロッピーディスク

3.1.3. GUARDIANに関連する注意事項

- ① 出荷時の AddPoint には、ログリストア領域用の仮想ディスクは追加されていません。ログリストア領域を設定するには、事前に領域用の仮想ディスクを追加する必要があります。ディスクの追加については、「2.2.4 ディスクの追加」を参照してください。また、ログリストア領域用ディスクの設定は初期設定完了後にも変更することが可能です。詳しくは『AddPoint/MailWallServer V7.2 for VMware ご利用の手引き』の「4.1.システム設定の変更」を参照してください。

- ② AddPointは仮想ディスク「/dev/sda」にシステムがインストールされています。仮想ディスクを追加すると、システムでは追加順に「/dev/sdb」「/dev/sdc」と認識されます。
- ③ 全文検索機能で使用するインデックスの生成は深夜帯などのシステムの負荷が低い時間帯に実施してください。全文検索インデックス作成については、『AddPoint/MailWallServer V7.2 for VMware ご利用の手引き』の「2.3.3.全文検索インデックス作成設定」や『GUARDIANWALL 全文検索システム利用の手引き』の「1-2-3 拡張機能」を参照してください。
システムの負荷状態は、AddPoint Manager の「システム状態表示」で確認することができます。詳細については『AddPoint/MailWallServer V7.2 for VMware ご利用の手引き』の「3.2.4 システム状態表示」を参照してください。
- ④ GUARDIANWALL の「添付ファイル暗号化機能」での「暗号化 ZIP+パスワード」は使用できません。

4. 付録

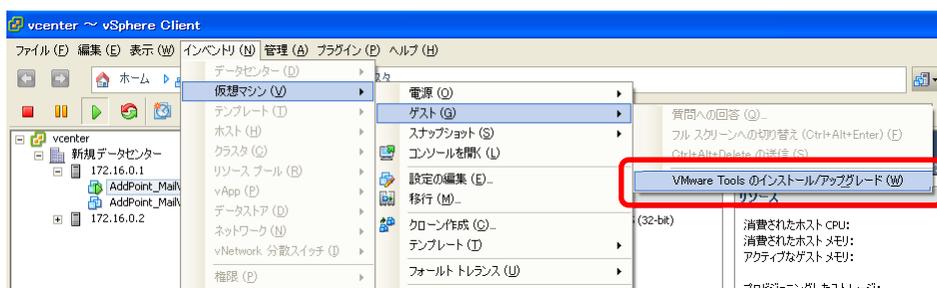
本章では、その他補足事項についてご説明いたします。

4.1. 仮想マシン関連

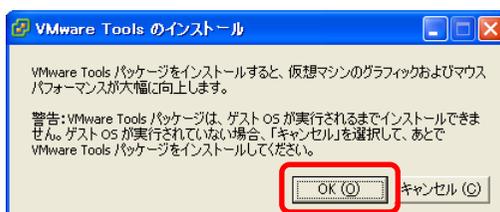
4.1.1. VMware Toolsのインストール

AddPoint/MailWallServer for VMware のゲスト OS に対して VMware Tools をインストールする手順について説明します。

- ① AddPoint/MailWallServer を起動します。インポートした仮想アプライアンス(仮想マシン)を起動してください。
- ② 仮想アプライアンスの起動完了後、vSphere Client からインポートした仮想アプライアンスを選択し、「インベントリ」-「仮想マシン」-「ゲスト」-「VMware Tools のインストール/アップグレード」を選択します。



- ③ 以下のようなポップアップ画面が表示されます。「OK」をクリックします。



- ④ ホストの「コンソール」タブをクリックし、コンソール画面を表示します。
- ⑤ ユーザ名とパスワードを入力し、ログインします。

- ⑥ 以下のコマンドを実行し、**root** 権限を取得します。

```
# su -
```

- ⑦ 以下のコマンドを実行し、**VMware Tools** が格納されている領域をマウントします。

```
# mount /dev/cdrom /media
```

- ⑧ 以下のコマンドを実行し、**VMware Tools** をシステムにコピーします。

```
# cp /media/VMwareTools-<version>.tar.gz /tmp
```

- ⑨ 以下のコマンドを実行し、**/tmp** に移動します。

```
# cd /tmp
```

- ⑩ 以下のコマンドを実行し、ファイルを展開します。

```
# tar xzf VMwareTools-<version>.tar.gz
```

- ⑪ 以下のコマンドを実行し、**VMware Tools** のインストールを行います。

```
#!/vmware-tools-distrib/vmware-install.pl
```

- ⑫ 表示されるウィザードに従って設定値を入力します。

- ⑬ イニシャライズが完了したら、インストールファイルを削除します。

```
# rm -rf VMwareTools-<version>.tar.gz vmware-tools-distrib
```

- ⑭ 以下のコマンドを実行し、**VMware Tools** が格納されている領域をアンマウントします。

```
# umount /media
```

- ⑮ インストール完了後、以下のコマンドを実行し **root** 権限を解放します。

```
# exit
```

- ⑯ 以下のコマンドを実行しログアウトします。

```
# exit
```

4.2. クライアントPC関連

4.2.1. クライアントPCのネットワーク設定

【Windows XP】

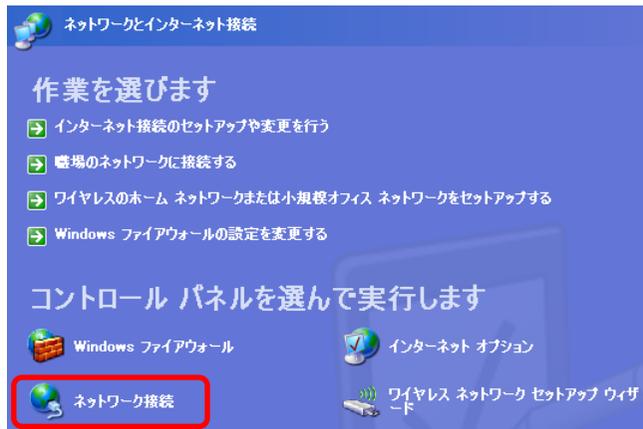
- ① 「スタートメニュー」から「コントロールパネル」をクリックします。



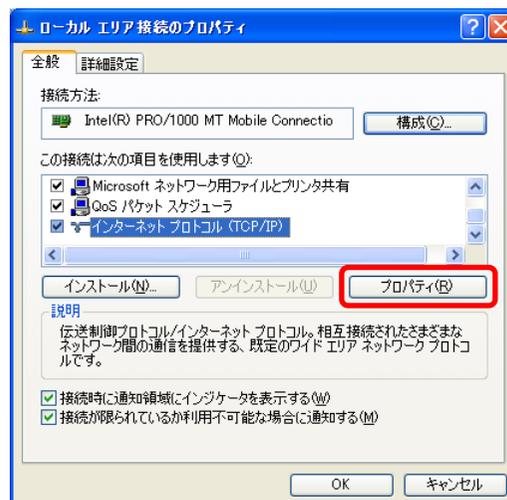
- ② 「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。



- ③ 「ネットワーク接続」をクリックします。



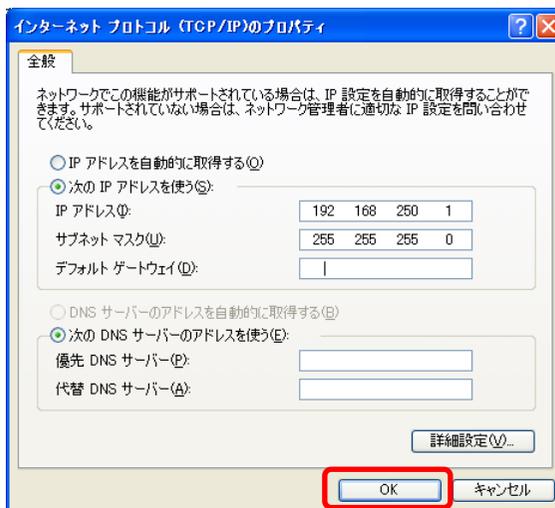
- ④ 「ローカルエリア接続」で右クリックし、表示されたメニューで「プロパティ」をクリックします。
- ⑤ 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」をクリックします。



- ⑥ 「次の IP アドレスを使う」にチェックを入れ、以下の設定を入力し、「OK」をクリックします。

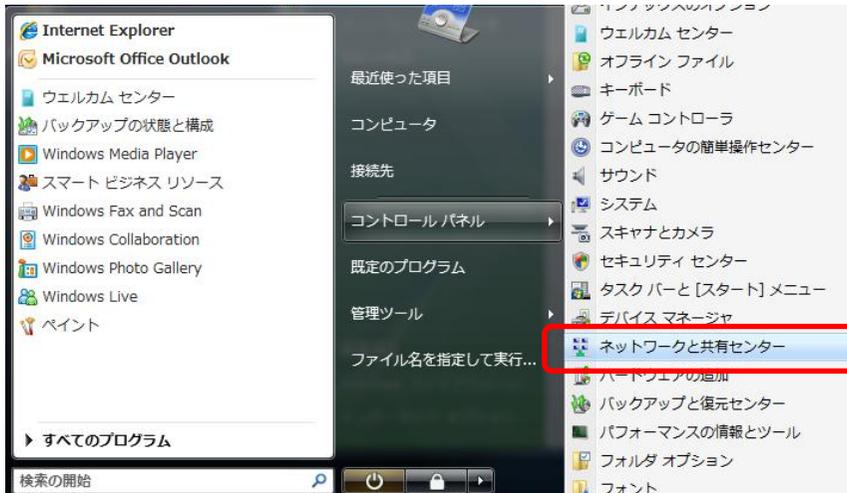
項目	設定値
IP アドレス	192.168.250.1 (192.168.250 内で重複しない IP アドレス)
サブネットマスク	255.255.255.0

- ⑦ 「OK」をクリックします。

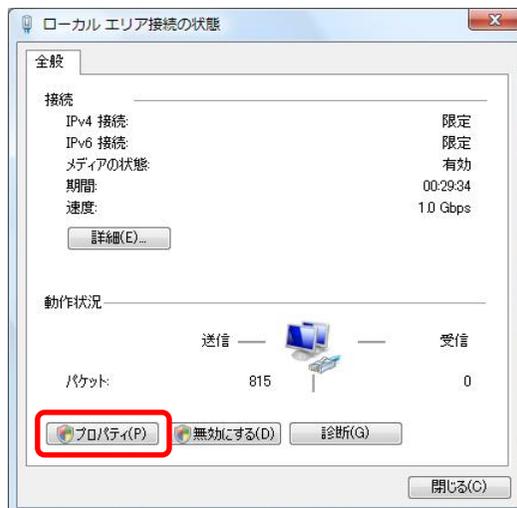


【Windows Vista】

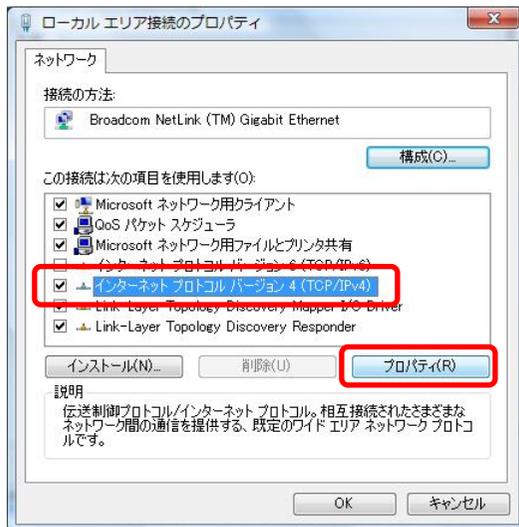
- ① 「スタートメニュー」から「コントロールパネル」→「ネットワークと共有センター」をクリックします。



- ② 表示された「ネットワークと共有センター」画面から「状態の表示」をクリックすると以下の画面が表示されますので、「プロパティ」をクリックします。

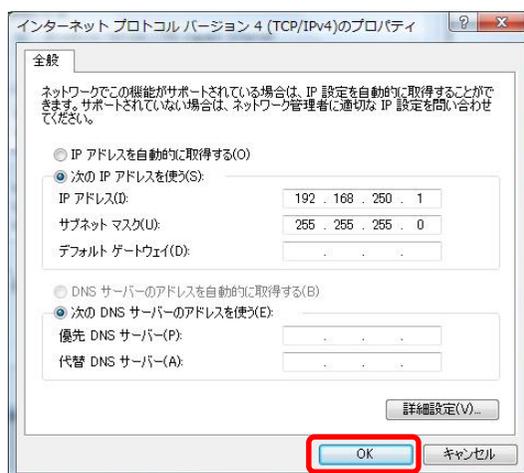


- ③ 「インターネットプロトコルバージョン 4(TCP/IPv4)」を選択し、「プロパティ」をクリックします。

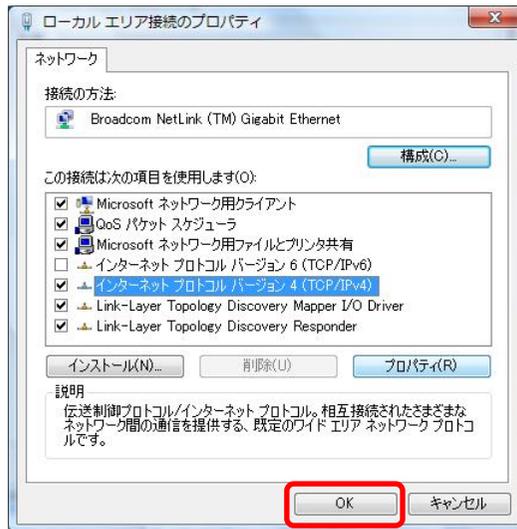


- ④ 「次の IP アドレスを使う」にチェックを入れ、以下の設定を入力し、「OK」をクリックします。

項目	設定値
IP アドレス	192.168.250.1 (192.168.250 内で重複しない IP アドレス)
サブネットマスク	255.255.255.0

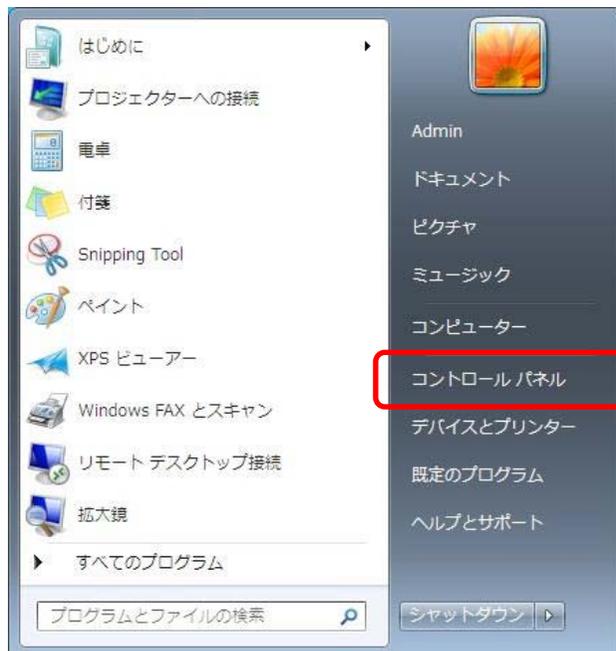


- ⑤ 「OK」をクリックします。



【Windows 7】

- ① 「スタートメニュー」から「コントロールパネル」をクリックします。

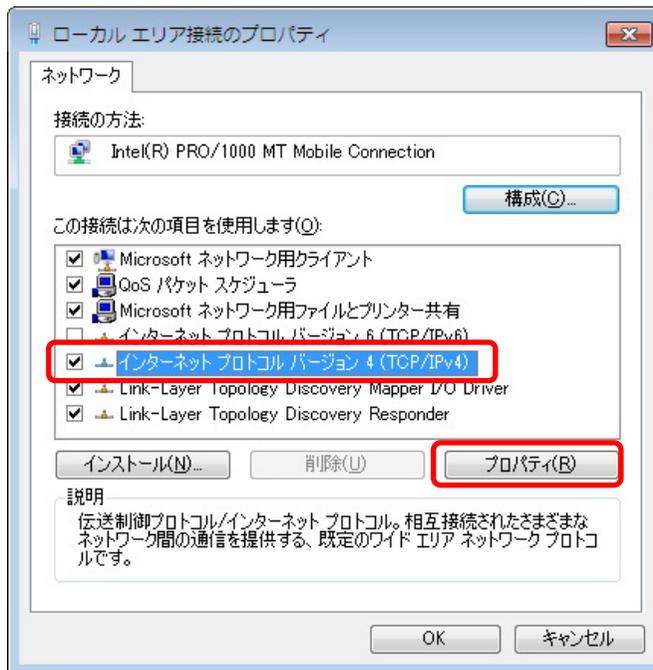


- ② 「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリックします。



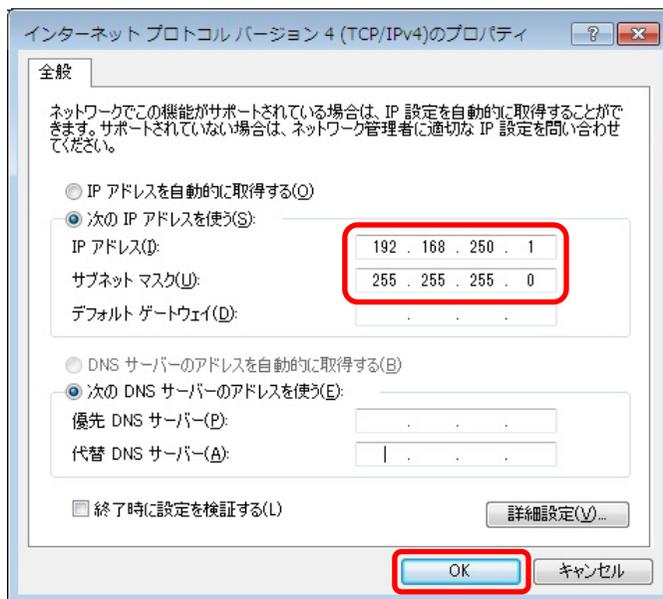
- ③ 「ネットワークと共有センター」で「ローカルエリア接続」をクリックします。

- ④ 「インターネットプロトコルバージョン 4(TCP/IPv4)」を選択し、「プロパティ」をクリックします。

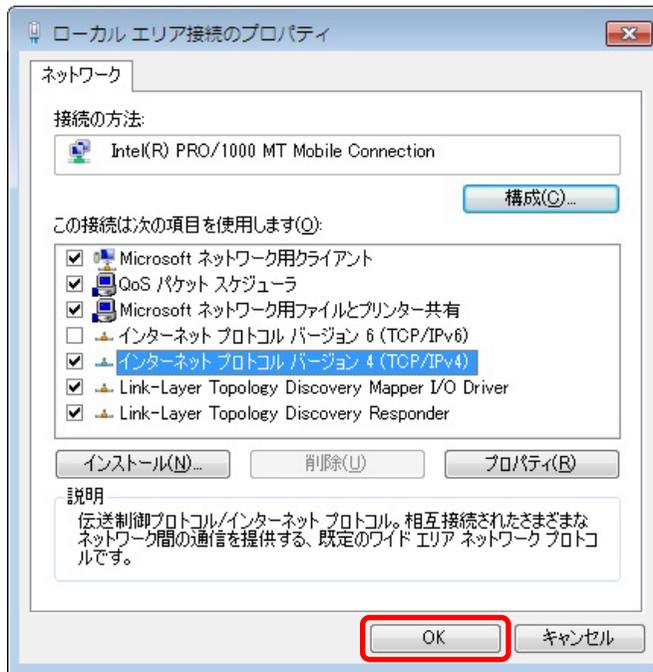


- ⑤ 「次の IP アドレスを使う」にチェックを入れ、以下の設定を入力し、「OK」をクリックします。

項目	設定値
IP アドレス	192.168.250.1 (192.168.250 内で重複しない IP アドレス)
サブネットマスク	255.255.255.0



⑥ 「OK」をクリックします。



MEMO